

環境活動レポート2012年度版

2012.5.1～2013.4.30

Ver1.1

2013年07月05日

紙から始めるコミュニケーション
株式会社長門屋商店

- 社名 株式会社長門屋商店
- 代表者 代表取締役 横溝純一
- 創業 1947年
- 設立 1953年
- 資本金 1,000万円
- 社員数 17名(就業する役員含む)
- 業務内容 紙製品の製造卸・小売業・賃貸業

主力商品



プリンタ用紙



祝儀・和文具

■ 事業所

- ◆ 本 社 東京都港区麻布十番1-5-25
- ◆ 東陽センター 東京都江東区東陽1-3-3
- ◆ 文具小売部 東京都港区麻布十番1-5-25 1F

■ 事業規模

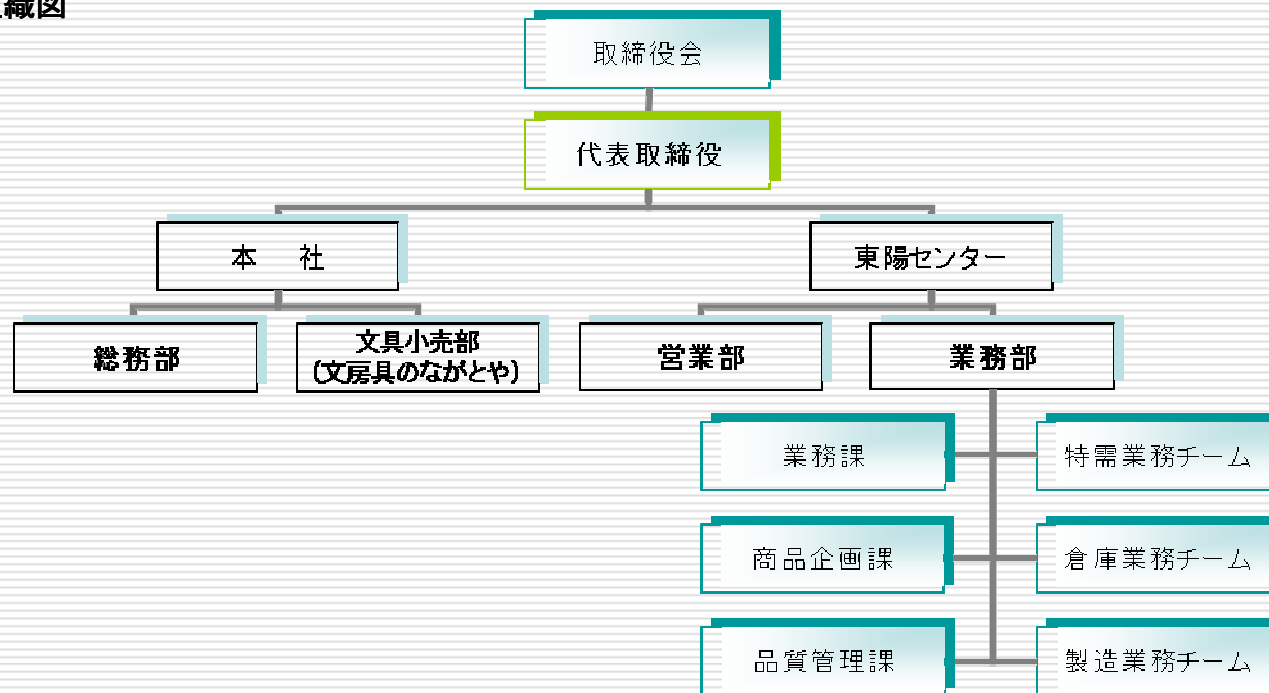
	2010年度	2011年度	2012年度
売上高(万円)	55,072	57,812	58,255

■ 環境管理責任者

東陽センター長 中島淳

nakajima@nagatoya.com

■ 組織図



■ 本社ビル (2011.05～ EA21対象範囲拡大)

- ◆ 本社(総務部) 総務・経理・不動産管理
- ◆ 文具小売部 一般文具の店頭販売

■ 東陽センター (2006.12～ EA21対象範囲)

- ◆ 営業部
- ◆ 業務部

■ 基本理念

- ◆ 当社は、紙加工品の商社として「環境にやさしい商品づくり」をメインテーマに、環境に配慮した製品の開発・拡販を積極的に推進し、環境配慮企業として循環型社会形成に寄与する企業活動を展開して参ります。また、日常推進事項として以下に掲げる項目を継続的な環境配慮活動として取り組んで参ります。

■ 活動指針

- ◆ 環境にやさしい商品づくり
 - 環境に配慮した新商品を積極的に開発して参ります。
 - 商品の包装や資材などを見直し環境負荷軽減に努めます。
 - 商品の売上げの一部を森林保護活動の為に役立てます。
 - 効率的な在庫管理をし、入在庫などに関わる物流エネルギーの削減に努めます。
- ◆ 省エネルギー
 - 資源やエネルギーの消費による環境負荷を認識し、限りある資源の保全に努めます。
- ◆ 廃棄物削減と汚染防止
 - 資源固有の特性を有効に活用し、廃棄物の抑制に取り組み環境汚染の防止に努めます。
- ◆ 関連法規制順守
 - 企業活動に関係する環境関連法規・条例・規制等を順守します。
- ◆ グリーン購入
 - 日常業務において使用する社用品にはグリーン製品を積極的に使用します。
- ◆ 環境活動に関する継続的持続
 - 環境負荷に関する内容をデータ管理し、目標を設定し継続的に持続達成に努めます。
- ◆ 環境活動の公表
 - 環境活動の計画及び実施状況を「環境活動レポート」としてとりまとめ公表致します。

2006年11月1日制定

2010年 5月1日改定

株式会社長門屋商店
代表取締役 横溝純一

Ver2.5

環境目標および達成状況一覧

実施事項	2011年度実績	2012年度実績	設定目標(単年 及び 3カ年)			達成状況
①-A 電力消費量	51,820kwh	56,858kwh 前年比 +9.7%	2012年度	50,903kwh	2011年比 -1.8%	×
			2013年度	54,000kwh	+4.2%	
			2014年度	53,000kwh	+2.3%	
①-B ガソリン給油量	10,592リットル	9,054リットル 前年比 -14.5%	2012年度	10,380リットル	2011年比 -1.1%	○
			2013年度	9,003リットル	-15.0%	
			2014年度	8,791リットル	-17.0%	
排出CO2削減	43,753 kg	43,091 kg 前年比 -1.5%	2012年度	43,112 kg	2011年比 -1.5%	○
			2013年度	41,565 kg	-5.0%	
			2014年度	40,253 kg	-8.0%	
② 水使用量	232m3	207m3 前年比 -10.8%	2012年度	229m3	2011年比 -1.3%	○
			2013年度	204m3	-12.0%	
			2014年度	200m3	-14.0%	
③ 廃棄物の排出量	430.2kg	1003.4kg 前年比 +133.0%	2012年度	421.6kg	2011年比 -2.0%	×
			2013年度	900.0kg	+109.2%	
			2014年度	850.0kg	+97.6%	
④ 環境対応商品売上高	24,828万円	25,591万円 前年比 +3.1%	2012年度	26,230万円	2011年比 +5.6%	△
			2013年度	26,566万円	+7.0%	
			2014年度	26,814万円	+8.0%	

集計は5月～翌4月を単年度としております。(例 2008年度:2008年5月～2009年4月)

①-A 電力消費量の削減

■ **実績 実質電力消費量は**
2011年度比9.7%ほど増加致しました。



本社ビル	2010年度	2011年度	2012年度
購入電力量(1)	41,638kwh	34,187kwh	35,114kwh
太陽光発電分からの社内消費量(2)			1661kwh
実質電力消費量(1)+(2)	41,638kwh	34,187kwh	36,775kwh
前年比		82.11%	107.57%

東陽センター	2010年度	2011年度	2012年度
購入電力量(1)	14,774kwh	10,901kwh	12,555kwh
太陽光発電分からの社内消費量(2)	4,917kwh	6,732kwh	7,528kwh
実質電力消費量(1)+(2)	19,691kwh	17,633kwh	20,083kwh
前年比		89.55%	113.89%

全社合計	2010年度	2011年度	2012年度
購入電力量(1)	56,412kwh	45,088kwh	47,669kwh
太陽光発電分からの社内消費量(2)	4,917kwh	6,732kwh	9,189kwh
実質電力消費量(1)+(2)	61,329kwh	51,820kwh	56,858kwh
前年比		84.50%	109.72%

購入電力量での排出CO2	26,119kg	20,876kg	22,071kg
前年比		79.93%	105.72%

環境省HPより

CO2排出係数	0.463
---------	-------

太陽光発電は従量電灯に接続しており、社内消費と相殺し、余剰分は売電しています。

①-A 電力消費量の削減

■ 設備



東陽センターのオフィス等はHf式蛍光灯使用

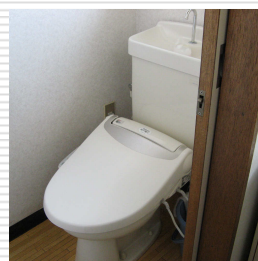


本社オフィスや店舗のスポットはLED照明を使用

■ 継続実施中



室温コントロール:冷房時28°C・暖房時22°C



便座のフタを閉めて放熱防止



扇風機・サーキュレータ併用でエアコン効率アップ



待機電流使用機器はOAタップで完全OFF

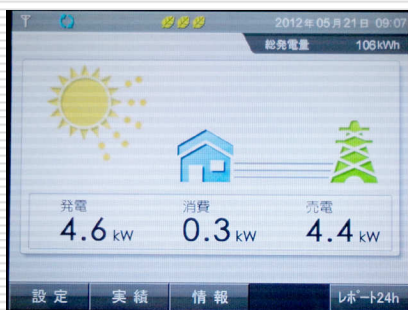


倉庫内や廊下の灯火は必要な分のみ

①-A 電力消費量の削減



2012.05.17～稼働を開始した
麻布十番本社ビル屋上に設置した
太陽光パネル54枚 9.8kw



■ 取組の詳細

- ◆基本は全て継続取組み。
- ◆特に新しい取り組みは増やしていません。

■ 評価・次年度へ

◆本社ビル

本社オフィスは2011年に新設しましたので、初の通年利用のため増加致しました。
2012年5月より本社ビル屋上は太陽光発電を開始いたしましたが、消費電力量の少ない回路に繋いでおり、消費量はそれほど減少しておりません。
なお、総発電量は10,662kwhになります。

◆東陽センター

東陽センターは従来、営業外出後に冷房範囲を狭めたり間引き点灯をしておりましたが、内勤の社員が増えたことで全体稼働となり増加致しました。
なお、社屋屋根の太陽光の総発電量は12,613kwhになります。

2013年度は特に新たな設備投資の予定は有りません。引き続き継続取組み致します。



2010.08～稼働中の東陽センター
屋根の太陽光パネル10kw

①-B ガソリン給油量の削減

■実績 2011年度比約14%削減致しました。

	2010年度	2011年度	2012年度
給油量	12,319L	10,592L	9054L
前年比		85.98%	85.48%

排出CO2	28,601kg	24,591kg	21,020kg
-------	----------	----------	----------

EA21ガイドラインより

CO2 排出係数	2.32166
-------------	---------



■取組の詳細

2012年6月に社員退社に伴い営業車が1台減少致しました。取組は従来通り、ガソリン給油量を各人ごと集計表して、燃費を算出し、意識付けを行なっております。

■評価・次年度へ

物流経路の短縮をかなり進めて参りました。まだまだ対応できる部分があるかと思っておりますので、変わらず効率化を模索して参ります。

①CO2排出量削減

■CO2の排出量について

2012年度は約5%のCO2削減を実現しました。

約170本分の杉林が吸収するCO2を削減致しました。

震災以後の火力発電依存により単位あたりの排出率は悪化しましたが、ガソリンの消費量減に助けられ、弊社としてはトータル昨年より削減することが出来ました。

なおEA21を開始した2006年は東陽センターのみで43,430kgを排出しておりました。

今季は両事業所合わせてその値を下回ることができました。

なお、弊社の太陽光発電設備により、電力会社の排出分をオフセットしたと仮定する集計を「実質弊社排出量」として追記致しました。



全社合計	2010年度	2011年度	2012年度
本社ビル 購入電力	19,278kg	15,829kg	16,258kg
東陽センター 購入電力	6,840kg	5,047kg	5,813kg
全社 ガソリン給油量	28,601kg	24,591kg	21,020kg
排出CO2合計	54,719kg	45,467kg	43,091kg
前年比		83.09%	94.77%

太陽光発電量による オフセット分	2012年度
本社ビル 総発電量	10,663kwh
東陽センター 総発電量	12,613kwh
発電量合計	23,276kwh
削減CO2量	-10,777kg
実質弊社排出量	32,314kg

※樹齢50年、高さ20~30mのスギは年間約14kgのCO2を吸収するものと想定しております。[環境省・林野庁 資料より]

②水使用量削減

■ 実績 2011年度比10%強を削減致しました。

本社ビル	2010年度	2011年度	2012年度
上下水道	42m3	39m3	37m3
前年比		92.86%	94.87%

東陽センター	2010年度	2011年度	2012年度
上下水道	194m3	193m3	170m3
前年比		99.48%	88.08%

全社合計	2010年度	2011年度	2012年度
上下水道	236m3	232m3	207m3
前年比		98.31%	89.22%



■取組の詳細

用途が手洗い・トイレ・清掃・飲用です。
洗車や水やりには、雨樋を加工して貯めた雨水を使うようにしています。

■評価・次年度へ

2012.6月に水量の少ない超節水トイレを導入しました。
超節水トイレは1回あたり5～8リットルほどの節水になり、弊社の場合、1日あたりおよそ100リットル節水になります。
また、先日気化熱式送風機を購入しました。雨水を多少ろ過できればこれにも活用できないか模索してみます。

③廃棄物の排出量削減

■ 実績 初めての実測値を得られました。

	2010年度 (換算値)	2011年度 (換算値)	2012年度 (実測値)
可燃	376.2kg	374.4kg	919.2kg
プラ			60.8kg
不燃	63.0kg	55.8kg	23.4kg

	2010年度	2011年度	2012年度
可燃・プラ・不燃合計	439.2kg	430.2kg	1003.4kg
前年比		97.95%	233.24%

■ 取組の詳細

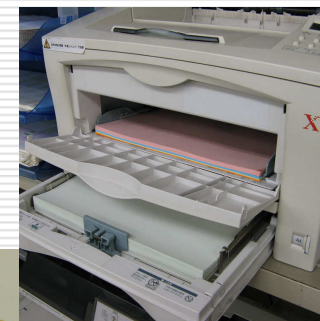
2012年度からはデジタルスケールを用いて実測致しました。

なお本社ビルの廃棄物は、家庭ごみと事業ごみの双方が排出されるので、計測対象外としております。

■ 評価・次年度へ

従来の45リットル袋を1.8キログラム換算と大きな差異があり、換算値が過少設定だったと反省いたしました。 今後はこの数字を指標として削減に努めて参ります。

社内文書には、余り紙を使用



再ハクリラベルで箱の再利用促進



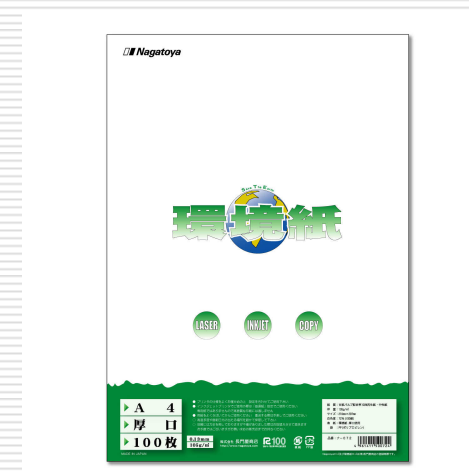
2012年度からはデジタルスケールで実測

■実績 2011年度比約3%アップ致しました。

	2010年度	2011年度	2012年度
環境対応商品	22,042万円	24,828万円	25,591万円
前年比		112.64%	103.07%

当社基準による自社ブランドのエコ商品の売上高です。

- ◆売上の一部を環境保全団体へ寄付している。
- ◆原料に廃材や再生材を使用している。
- ◆非木材原料を使用している。



グリーン購入法適合用紙「環境紙」

■取組・評価・次年度へ

社の売上の伸びと比較すると割合は低下しております。

OEM製品や委託製造品などこれに含まれない商品の伸びが大きく、自社の環境対応商品は微増でした。

昨年より商品企画課のメンバーが増えました。環境にやさしい商品づくりの強化に努めて参ります。



オイスカ「子供の森」計画支援

「子供の森」計画は子どもたち自身が、学校の敷地や隣接地で苗木を植え育てていく実践活動を通じて、「自然を愛する心」「緑を大切にする気持ち」を養いながら、地球の緑化を進めていこうという学校単位の新しい森づくり運動です。弊社製品の売上の一部を公益財団法人オイスカの進める「子供の森」計画に寄付しております。



東京湾「海の森」植林活動

2012年10月ゴミ埋め立て地の森作り「海の森」プロジェクトに社員の家族とともに参加いたしました。



WWF「しらはサンゴ村」支援

WWFジャパンは、沖縄県石垣島白保にサンゴ礁保護研究センター「しらはサンゴ村」を設立し、地元の白保の人たちとともに、サンゴ礁の調査や保全活動、持続的な海の資源利用に取り組んでいます。弊社では「OAマルチケント紙 美彩紙」のメーカー売上高の1%を活動支援金として寄付しております。

グリーン購入につきまして

文具販売業を営んでいるため、汚れによる販売不可商品やサンプル品なども日常積極的に使用しており、文具通販等からの購入がなく事務用品のグリーン購入は数値集計が難しく行なっておりません。

以下の通りに意識的にグリーン購入を実施しております。

■OA機器類や電化製品などの購入の際には、右記の写真のように「エコマーク」や「Energy Star」が付いたものなどを積極購入

■印刷封筒類は古紙配合のものを使用

■コピー用紙はシーンによって、再生PPCを使用

■モノクロレーザープリンタには、再生トナー、再生ドラムを使用



■環境関連法規への違反、訴訟などの有無

環境関連法規に関する違反はありません。
 また訴訟についても事例がありません。
 関係当局よりの違反の指摘は過去3年間ありません。

法規・条例	業務における順守事項	評価	
環境基本法 都民の健康と安全を確保する環境に関する条例	<ul style="list-style-type: none"> ■ 環境への負荷の低減の取組 ■ 自動車公害対策(アイドリングストップ) 	○	遵守
廃棄物処理法 東京都廃棄物条例	<ul style="list-style-type: none"> ■ 廃棄物処理業者の管理、分別廃棄の管理 	○	遵守
容器包装リサイクル法	<ul style="list-style-type: none"> ■ 紙容器・プラスチック袋の使用状況の把握 ■ 商品包装への識別マーク表示 ■ 上記の包装資材の再商品化義務 	○	遵守
家庭用品品質表示法	<ul style="list-style-type: none"> ■ 障子紙が該当 	○	遵守
下水道法	<ul style="list-style-type: none"> ■ 日常使用の範囲 	○	遵守
労働安全衛生規則	<ul style="list-style-type: none"> ■ 電動フォークリフトの法定検査および自主検査 	○	遵守
自動車リサイクル法	<ul style="list-style-type: none"> ■ リース車両につき、リース会社に委託 	○	遵守
家電リサイクル法	<ul style="list-style-type: none"> ■ 指定産廃業者に廃棄委託・支払 	○	遵守

2013年5月現在

2013年度について/環境管理指導責任者の総評

■2013年度につきまして

<特に重視する施策>

- ◆電力消費の見直し
- ◆廃棄物の排出量の見直し
- ◆WindowsPCの入れ替えによる省電力化

実施事項	2012年度実績	2013年度目標	
①-A 電力消費量	56,858kwh	54,000kwh	前年比 -5.03%
①-B ガソリン給油量	9,054リットル	9,003リットル	前年比 -0.56%
排出CO2削減	43,091kg	41,565kg	前年比 -3.54%
② 水使用量	207m3	204m3	前年比 -1.45%
③ 廃棄物の排出量	1003.4kg	900.0kg	前年比 -10.30%
④ 環境対応商品売上高	25,591万円	26,566万円	前年比 +3.81%

■環境管理指導責任者の総評

電気使用量はEA21の取組以来、始めて大きく消費が上がってしまいました。社員の増員と夏場の酷暑などが原因かと思えます。

エアコンはそれなり使用しております。弊社は年配の従業員もおりますので第一は体調管理と思っております。今回の増加については不可抗力と捉えることに致します。廃棄物に関しては始めて実測しましたので、ここをスタートラインとし、2013年度の削減目標を高めに設定しました。

2013年度は大きな設備導入予定はございません。何もないからこそ教育面を強化していかなければ2013年度の削減は無いと思っております。

麻布十番も昨年より取り組んでおりますが、私が普段常駐しないこともあって意識をなかなか伝えられませんが、両事業所ともここ数年で若い社員が入社しました。2013年度はこの若い社員たちに少しづつでも取り組みの「効果」「尊さ」を伝え、継続に繋げたいと考えます。

最後に私事ではございますが、例年ならば5月末頃にはレポート作成をしておりますが、本業多忙につき着手が6月後半になってしまいました。

自ら率先して動いてしまう性分です。ただ前述と同様、後進の育成のためにも教育と分散が必要だとしばしば思うことがありますが、今のところ反省ばかりです。“自らのPDCA実施”これが私自身のレベルアップのための大きな課題と思っております。

2013.07.05 中島淳

代表者による総括

私ども長門屋商店は自然エネルギー導入を積極的に推進しております。港区麻布十番に在る本社屋上に設置した太陽光発電システム(9.828kw相当)は、今年度10,663kwの電力を発電いたしました。また江東区に在る東陽センターの太陽光発電システム(10kw相当)は、同期12,613kwを発電し、全社の年間発電量は23,276kwに達しました。これは、私たちの業界内においては類のない発電能力であり環境貢献のひとつだと自負しております。

この他、社外における環境活動の一環として東京都が主催する「海の森」植樹プロジェクトへ4年目の参加をするなど継続的かつ直接的な環境活動を進めています。

また一方では当社が継続的に支援を続けているWWFジャパンのサンゴ礁保護研究センター「しらほサンゴ村」の海洋保全活動や、公益財団法人オイスカの「子供の森」計画の活動へも売上金の一部を支援金として寄付するなど、間接的な環境活動にも取り組んでいます。

今期は、エコキャップ回収活動への取り組みを始めたり、津波被災地における「海岸林再生プロジェクト10ヵ年計画」へも支援金を贈ったり、新たな試みを開始しています。

今年度環境活動レポートの「環境目標および達成状況」を総括しますと、全社の電力消費量が前年比9.7%増加してしまいました。原因を究明してみますと、東陽センターにおける事務スペースのレイアウト変更により、照明及び冷暖房を必要とする空間が、前年より約50%増床になったことが大きな要因と解りました。(東陽センターのみの消費電力消費量が前年比115%) また其れに加え昨年夏の記録的な猛暑の影響も否めません。共に物理的な要因の為、対策・改善は難しいですが、東日本大震災以降に高まった全社的な節電意識を今一度浸透させるなど、電力消費量の削減に努めて参ります。

ガソリンの使用量については今期も削減(前年比14%)を達成することが出来ました。前述の電気消費量の増加部分を加味しても、CO2排出量が前年比約5%の削減を実現できたことは特筆すべき点かと思えます。

水使用量については約10%の削減となり、昨年6月に東陽センターへ導入した節水トイレの効果が顕著に表れた様です。今後は本社への導入も検討していきます。

廃棄物排出量については、今年度より東陽センターの集計方法を実測値計量に変更いたしました。これまでの過小であった設定値を改め、より現実的な削減に取り組んで参ります。

最後に環境対応商品の売上高アップについては約3%の増加に留まりました。景気などにも大きく左右される目標でもありますが、新製品の開発・強化に努めて参ります。



2013年6月25日
代表取締役 横溝純一

紙から始めるコミュニケーション

株式会社長門屋商店

<http://www.nagatoya.com>

編集者：長門屋商店 業務部 中島 淳

〒135-0016 東京都江東区東陽1-3-3
TEL 03-5690-7131
FAX 03-5690-8010
e-mail nakajima@nagatoya.com